

中国空軍の対台湾作戦準備

漢和防務評論 20161002 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍は、対台湾作戦準備を着々と進め、台湾の前総統馬英九の対中融和政策に影響を受けることはありませんでした。

グーグルの衛星写真で誰にでも撮影時の中国空軍飛行場の現況を見ることができますが、10年前と現在では全く様変わりしています。

中国各省の経済成長の競い合いのため、土木工事が増えたことも飛行場整備の追い風になっていると思います。

KDR 平可夫香港報道：

この5月、中国中央テレビは、J-10 戦闘機の強化型棟割式格納庫の画面を放映した。この格納庫は、早期に建設された簡易型とは異なり、“第一線飛行場用の格納庫”で、格納庫の天井の厚さは3M以上ある。台湾海峡に面した中国空軍の第一線飛行場は、過去8年間で、すべて堅固な格納庫になっているのをKDRは確認した。また地対空ミサイル部隊もすべてHQ-9、S300PMU1/2、HQ-12、HQ-6を主体とする先進型の防空システムを形成している。中国空軍の対台湾作戦準備は明らかに強化されている。

特に変化が大きいのは航空兵第9師団である。仏山基地（広東省）は改修中であり、惠州基地（広東省）は大幅に充実強化された。配備されたJ-10戦闘機は、強化型・独立隠ぺい型の堡壘式格納庫に入っている。この基地は台湾の高雄からの距離が595KMあり、戦時は、台湾空軍の重点攻撃目標になる。2つの堡壘式格納庫から2KM離れた場所にHQ-12型地対空ミサイル陣地がある。汕頭空軍基地（広東省）にもJ-10が配備されている。現在、9師団は、2個連隊のJ-10を保有するのか、1つだけなのかは明確でない。汕頭空軍基地は早い時期から堡壘式の独立した格納庫群が建設されており、滑走路も強化型コンクリートが使用されている。台湾軍は、2000ポンドGBU-10型レーザー誘導爆弾を持っている。福建省の第一線の空軍基地の堡壘式格納庫はこの種の誘導爆弾の攻撃を想定して建設された可能性がある。台湾軍は、1980年代にはGBU-10を獲得していたが、当時BLU-109型弾頭は未開発であった。したがって台湾軍のGBU-10はGBU-24/27のような堡壘型目標を攻撃できる能力はないものと、KDRは認識している。

漳州空軍基地（福建省）は、HQ-12 と HQ-6 型地对空ミサイルが同時に配備され、それぞれ 6 個の発射機があり、明らかにそれぞれが 1 個大隊編成であることが分かる。漳州空軍基地はすべて堡壘型の独立した格納庫になっており、長年の観察によって、この飛行場が機動用飛行場であることが分かった。平時は編制部隊が駐屯しておらず、2011 年に J-8 II 型戦闘機が進駐したことがある。

惠安空軍基地（福建省）は、S-300 型地对空ミサイルが展開し、24 個の連結式簡易格納庫と少量の堡壘式格納庫がある。ここは台湾北部及び中部からの直線距離が 220KM 以下である。長年の観察によって、ここは J-6 型無人攻撃機が配備されているだけであり、台湾のレーダー基地を攻撃する部隊である、と KDR は見ている。

また惠安飛行場から 33KM の距離の泉州（福建省）に空軍基地がある。ここで説明すると、上記の基地の多くは、軍民両用である。泉州飛行場には新たな格納庫などは建設されていない。この飛行場は予備飛行場なのだろうか？昔の土壘型掩体は現在も存在している。

福建省の龍田飛行場は、最高の戦備状態にある。偽装された堡壘式格納庫がある。S-300 シリーズの地对空ミサイル部隊が 2 個大隊配備されている。ここは台北から直線距離で 221KM しかない。ここは、戦時、燃料切れ寸前の J-10 戦闘機、J-11 戦闘機が着陸してくる可能性がある緊急飛行場であろう。

第一線飛行場に含まれる台州飛行場（浙江省）には海軍航空兵第 4 師団の J-10A が配備されている。ここは堡壘式格納庫と連結式簡易型格納庫が併存している。中国の海空軍基地ではあまり見られない光景である。台北から距離 550KM の寧波（浙江省）には、海軍航空 4 師団の最精鋭 SU-30MK2 部隊が駐屯している。ここは密閉型の堡壘式格納庫である。

上述の第一線飛行場では、2000 年前後から強化型格納庫の建設が開始された。そしてわずか 2 年足らずで基本的に完成を見た。本誌が驚いたのは、第二線飛行場の戦備状況も大きく強化されていることである。それらの飛行場は、江西省、安徽省、浙江省に分布する。

浙江省の衢州に航空兵第 29 師団の SU-30MKK が駐屯している。同時に偽装型の堡壘式格納庫と第一線用格納庫が建設されている。前者は、2005 年以降、建設

が開始された。

江西省の南昌には、航空兵第 14 師団の J-11 が駐屯し偽装型の連結式格納庫が建設されている。安徽省の安慶には航空兵第 10 師団の H-6K が駐屯している。この基地は、爆撃機基地としては最適であると KDR は考えている。弾薬庫は地下にある。

広東省の XINGNING は、台湾中部からの距離が約 450KM であり、大量の J-6 型無人機が配備されている。このため連結式格納庫が建設され、その重視の程度が解る。J-6 無人機システムは旧式システムと考えるべきでない。KDR が掌握した情報によると：J-6 無人機を開発した当初はハイテク事業であった。J-6 の数が膨大であり、新たな使い道を見出したことから空軍は重視している。2013 年、同基地に HQ-12 ミサイル陣地が建設された。2つの無人機基地（福建省惠安）周辺には地対空ミサイルが配備されていることが分かる。

上述した福建省、浙江省、広東省、江西省、安徽省の 5 省の第一線及び第二線の飛行場は、第三世代戦闘機と新時代の地対空ミサイルが配備され、対台湾作戦準備を基本的に完了している。爆撃機師団だけでも 2 個（萊陽）ある。戦時、台湾軍の上述飛行場に対する攻撃は、堡壘式格納庫が建設されたため、攻撃効果は大幅に減衰する可能性がある。台湾空軍は、新時代の強化型の堡壘式格納庫を攻撃できる誘導爆弾或いはミサイルが完全に欠けている。例えば、韓国空軍は、早期に GBU-24/BLU-109 を導入している。湾岸戦争において、多数のイラク空軍基地の堡壘式格納庫は GBU-27 で破壊された。この爆弾に使用されたのは BLU-109 型浸透型弾頭である。

一方、中国の軍事工業部門は、堡壘式格納庫の建設と同時に、2000 ポンド誘導爆弾の開発を相当重視している。伝統的に、中国空軍の爆弾は 500KG を超えなかった。例えば、北方工業公司（NORINCO）は、すでに 1000KG 級の GB1000 誘導爆弾を輸出している。この爆弾は、GPS/GNASS+レーザー誘導方式を採用、打撃精度は 5M 以下或いは 3M に達することもある。そのうち、I 及び II 型弾頭は、210KG の遅延型貫徹弾頭を使用、3.6M の強化型コンクリートを貫徹することができる。GB-1000 II の外見は GBU-27 に酷似しており、堡壘攻撃を重点に使用する。当然、今のところ、中国の戦闘機がこの種の誘導爆弾を搭載しているところは発見されていない。しかし NORINCO は、類似の爆弾を生産する能力はある。このことは、その他の航空爆弾製造工場も類似の爆弾を生産する能力があることを意味する。

予想できることは：中国空軍は、もし必要ならば、直ちに 2000 ポンド貫徹型誘導爆弾及びミサイルを調達する能力がある、ということである。

以上